

所在地：高知県中土佐町

選定年月日：平成21年2月12日、平成23年2月7日追加

面積：3843.3 ha

選定基準：二(一)(三)(五)(七)(八))

(1) 概要

標高300mの高原台地に広がる中土佐町大野見^(おのみ)地区は四万十川上流域に位置し、地区を二分して貫く四万十川本流に数々の支流が流れ込んで美しい渓谷を形成しています。その川の流れに沿って水田が発展するとともに、農林業の複合経営に活路を求めてきた場所です。

大野見地区の97%を占める山林は、明治から昭和期に杣^(そま)や木挽^(こひ)きによって切り開かれ、陸路が整備されるまでは川を利用して「管流し」で下流へと運ばれていました。これらは陸揚げされた後、陸路で久礼^(くれ)まで運ばれ、久礼港から近畿圏などに輸送されました。

また、大野見地区には四万十川本流に12ヶ所見られる堰のうち、6ヶ所が集中しています。これらは藩政期から繰り返された開墾と新田開発に伴う灌漑工事で構築され、今も地区内に遺存しています。

「四万十川流域の文化的景観 上流域の農山村と流通・往来」は、四万十川上流域の狭い土地に農地を開墾し、新田開発を行うとともに、木材の輸送を通じて形成された文化的景観です。



奈路平野



四万十川本流最上流の高樋沈下橋



長野堰



新改集落の石積み田畑

（２）選定範囲



重要文化的景観の選定範囲

- 重要な構成要素：49件

（３）選定による効果

四万十川流域は複数の自治体にわたって広がっているため、広域で選定を受けた5市町で四万十川流域文化的景観連絡協議会を構成し、流域が一体となって景観保全や普及啓発の取り組みを行なっています。保存計画・整備活用計画の改定のほか、統一デザインでのサイン看板の作成、普及啓発のための新たな制度づくりなどを連携して行なっていくことにより、四万十川流域としての景観のまとまりを生み出すことができています。（詳しくは事例39-01～05①へ）



奈路橋



竹原・熊野神社参道

（４）保存活用計画などの基礎情報

- 四万十川流域の文化的景観 上流域の農山村と流通・往来保存調査報告書（平成22年、中土佐町）
- 国選定重要文化的景観『四万十川流域の文化的景観』～上流域の農山村と流通・往来～整備活用計画（平成26年6月、中土佐町）※保存計画書を含む
- 四万十川流域の文化的景観「上流域の農山村と流通・往来」保存活用計画改定事業報告書（令和5年3月、中土佐町）
- ホームページ <https://www.town.nakatosa.lg.jp/>

(5) 活用事例

四万十川流域の文化的景観
四万十川流域の文化的景観
四万十川流域の文化的景観
四万十川流域の文化的景観
四万十川流域の文化的景観

源流域の山村
上流域の山村と棚田
上流域の農山村と流通・往来
中流域の農山村と流通・往来
下流域の生業と流通・往来

(高知県津野町) No.39-01
(高知県梼原町) No.39-02
(高知県中土佐町) No.39-03
(高知県四万十町) No.39-04
(高知県四万十市) No.39-05

事例39-01~05 ①

5市町連携による一体的保護を進める「四万十川流域文化的景観連絡協議会」

文化庁補助金

●行政による取り組み

四万十川流域文化的景観連絡協議会は、流域の5市町と四万十川の清流保全・流域振興の活動をする(公財)四万十川財団及び高知県文化財担当課で構成し、文化的景観を守り育てることを目的に、情報交換や施策調整を行っています。

流域で統一したデザインのロゴマークやサインの策定(平成21年度)などに連携し取り組むことにより、市町をまたいだ選定範囲において一体感のある流域景観を生み出しています。

選定から10年以上が経過し流域全体としての文化的景観の価値や意味が十分共有されていないことに課題を感じるようになり、一体的な保存・活用を進めていくために5市町が連携し保存活用計画の改定に取り組みました。(令和3・4年度) 現在は、保存活用計画の改定を受け、整備活用計画の改定に連携しながら取り組んでいます。

また、文化的景観の効果的な情報発信事業として、サスティナブル・シマント(Sustainable Shimanto)という認証制度を設け、広く情報を発信・活用できるよう取り組んでいます。(令和4・5年度)



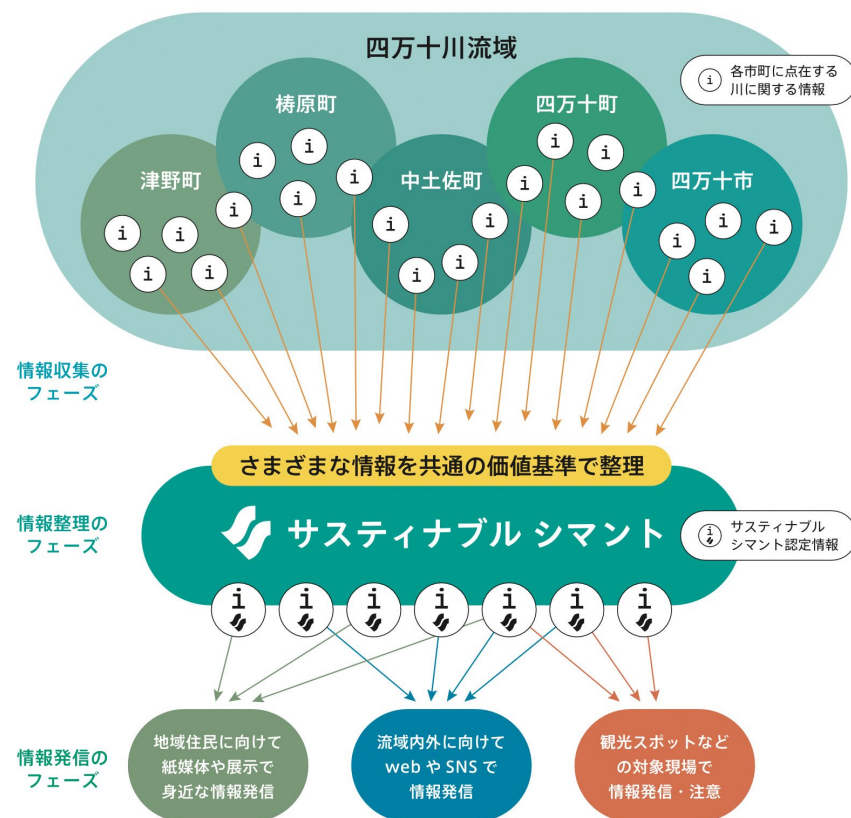
ロゴマーク



協議会の様子



5市町が連携し保存活用計画を改定



四万十川流域の情報発信事業サスティナブル・シマント

① 地域内での
魅力の共有

② 目標の
活性化の
共有

③ 広域外への
広報

④ 魅力を引き
出す

⑤ 確実な
資源の
運用

⑥ 人づくり・
教育

(5) 活用事例

四万十川流域の文化的景観
四万十川流域の文化的景観
四万十川流域の文化的景観
四万十川流域の文化的景観
四万十川流域の文化的景観

源流域の山村
上流域の山村と棚田
上流域の農山村と流通・往来
中流域の農山村と流通・往来
下流域の生業と流通・往来

(高知県津野町) No.39-01
(高知県梼原町) No.39-02
(高知県中土佐町) No.39-03
(高知県四万十町) No.39-04
(高知県四万十市) No.39-05

事例39-01~05 ②

流域市町による「四万十街道ひなまつり」

●行政と住民等の協働による取り組み

四万十街道ひなまつりは、平成18年から実施されているひなまつりで、四万十川流域を人々が行き交う街道に見立てて名づけられています。現在は流域の住民団体でつくる「四万十遺産ネットワークス」が主催しています。

実施にあたっては、津野町、梼原町、中土佐町、四万十町、四万十市、愛媛県松野町、愛媛県鬼北町の7市町が連携・協力しています。各市町では、様々な団体や施設が協力し、ひな人形の飾りつけを行い、地域内外からの訪問客を楽しませています。展示場では、イベントや地元で作られた物品の販売なども行われ、地域の活性化にも寄与しています。

ひなまつり展示会場に携わる住民の声

毎年、テーマを変えて飾りつけをしています。町内外の人が楽しみにしてくれています。また、町内で作られたものを販売し、とても好評なので、これからも連携を進めていきたいと思っています。

団体等情報：四万十遺産ネットワークス
代表 溝渕博彦様 携帯電話：090-8971-0456



船戸地区（津野町）



高樋沈下橋（中土佐町）



網代御殿（四万十市）



民家「おしどりの巣」
（梼原町）



雲旧都築邸（四万十町）



子どもたちなど、地域住民の笑顔が光る、ポスターとパンフレット

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 資源の
確保と運用

⑥ 人づくり・
育